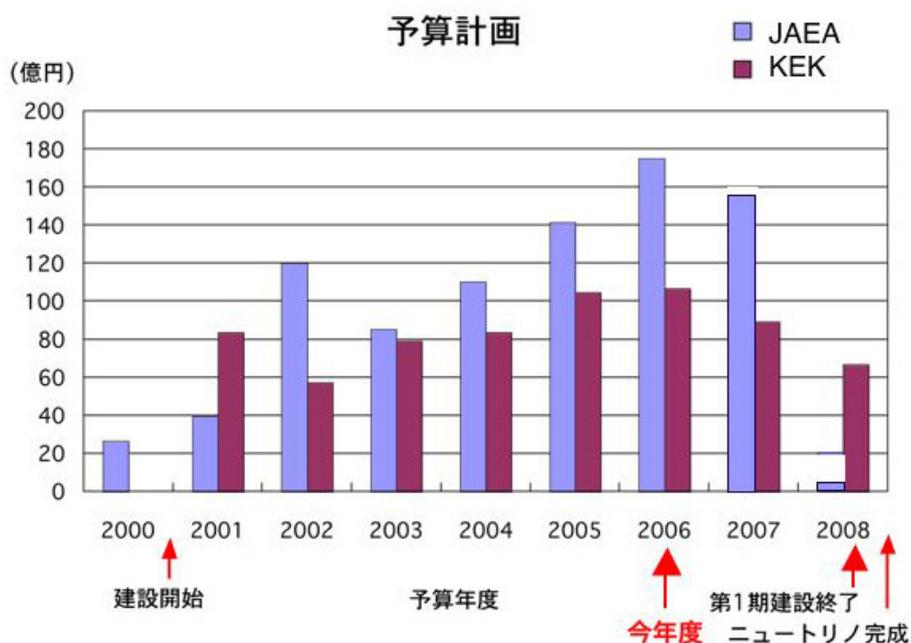


J-PARC 進捗状況

J-PARC センター 永宮 正治

1. 平成 19 年度予算内示と資金計画

- 平成 18 年末の内示により、建設費の年次計画は以下の通り。



- さらに、運営交付金として、JAEA では 21.5 億円が、KEK では 43 億円が J-PARC に対して計上された。これにより、平成 19 年度の 3GeV 運転も資金的には可能となった。
- その後、RCS の建設においていくつかの不具合が見つかったが、工程に変化が生じないように、調整を進めている。

2. リニアックビーム加速

- 昨年 11 月 20 日、RFQ への入射開始。同日中に、入射に成功した。
- 本年 1 月 24 日、リニアックにて 181 MeV 加速成功。リニアック出口でビーム確認。



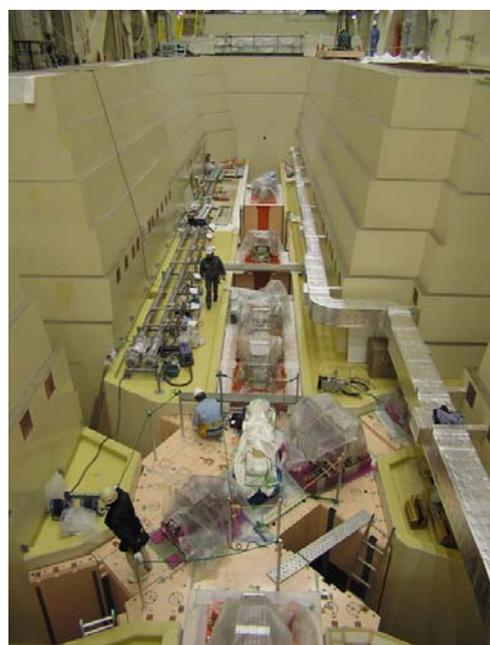
中性子実験室



中性子源



中性子源リモートコントロール部



ミュオン生成標的部



50 GeV 電磁石



50 GeV ニュートリノ出射部

4. 中間評価部会

- 第1回の中間評価部会は、科学技術・学術審議会の下で平成15年秋に開催されたが、第2回の中間評価部会が、昨年12月から行なわれている。
- 前回はニュートリノの前倒しとリニアックエネルギーの先送りが議論されたが、今回の重要議題は、以下の通り：

運営の体制（J-PARC センター）、運営の形態（利用の指針、課題審査の方法、料金体系、共用促進法の適用）、施設整備関連（リニアックエネルギー増強、二期計画）、運営の経費（維持費と実験経費）、国際的に開かれた施設の構築、（国際研究拠点としての役割を果たすために必要な機能と設備の整備、国際的組織の活用）、等。

5. J-PARC センターの活動

- センター長予算ヒアリング：両機関のJ-PARC センター関連予算の要求状況を把握するため、合同でセンター長ヒアリングを実施。まず、平成19年度の実施予算要求に対して行ない、今後のプラン、特に維持費や二期計画等についても実施予定。
- 環境整備WGとして、NTT 跡地、原安技センターの居室確保、真砂寮第5棟のKEKへの貸与（洋室（9室）を職員宿舎、和室（8室））について前向きに検討。また、情報交流棟や阿漕ヶ浦クラブにおける無線ネットワーク整備を始めた。
- 放射線管理関係では、10月上旬、リニアック試運転に向けて、原子力安全技術センターの使用前検査を受け、合格した。その後リニアック地区は放射線管理区域としてリニアック運転に向けて本格稼働し始めた。
- SNS との国際協力協定について4月締結を目指して準備中。JAEA と KEK のセンター員をカバーできるよう、国際協定はセンター長が署名。
- 茨城県との設置契約は、茨城県知事と J-PARC センター長との間で3月1日付けで契約を締結した。
- 中性子・ミュオン利用促進体制として関係機関連絡会議を J-PARC センターに設置し、11月27日にキックオフ会議を開催した。KEK、茨城県、東大、放射線利用振興協会、などが参加し、産業利用促進、大学利用、国際対応、などで協力・連携して進めることを目的とする（第2回連絡会議は2月15日実施）。

6. 加速器技術国際諮問委員会、J-PARC 国際諮問委員会

- 3月1日から3日間、加速器技術国際諮問委員会が開催され、さらに、3月5日より2日間、J-PARC 国際諮問委員会が開催された。
- 国際諮問委員会の報告は、4月には出されるが、会議終了前に発表された主な勧告には、J-PARC を国内外のユーザーの期待に沿う研究施設に育て上げることの重要性、J-PARC センターの運営方針、ライナックの400MeVへの早期回復、デザイン値の早期達成の為に体制作りなどが含まれている。

7. 第2回 J-PARC PAC

- 1月10日から3日間、第2回 J-PARC PAC が開催され、新たに Stage-2 の採択が4件、Stage-1 の採択が5件あった。

8. 第2回 遅い取り出しユーザー加速器連絡会

- 3月15日、16日とハドロン実験施設で実験を計画しているユーザーと加速器グループとの連携を強めることを目的とする表記連絡会の第2回目が開催された。約60名の参加があり、加速器の建設状況、遅い取り出し機器の進捗状況の報告に加え、加速器物理の入門編、またハドロン物理などの発表と、議論があった。
- 16日には、東海の J-PARC 建設サイトツアーがあり、40名強が参加した。次回は、3-4ヶ月後に開催の予定。

以上